

▶ 特別講演

【ライフホール 9:40~10:25】

「コロナ禍乗り越え、新たな時代に」

前厚生労働大臣 加藤 勝信



新型コロナ感染拡大で痛感したのが、わが国における医療分野のデジタル化の遅れだった。この解決には、医療DXによる健康・医療情報の活用を思い切って進めていくことが必要になる。

政府は昨年10月に総理大臣を本部長とする「医療DX推進本部」を立ち上げ、今年6月には工程表を策定した。

工程表では、2024年度中の電子処方箋の普及、介護保険・予防接種等にかかるマイナンバーカードを利用した情報連携の実現などを図っていくと明記。また、2024年度から標準型電子カルテの開発に着手し、遅くとも2030年には概ね全ての医療機関で必要な患者の医療情報を共有できることを目指すとした。さらに、診療報酬と患者負担の統一的な計算プログラムである共通算定モジュールを開発し、2026年度より本格的に提供することとした。

今後とも国民の理解をいただきながら、歯科技工士の皆様も含む医療界はじめ、産業界とも一丸となり、医療DXの実現に向けてしっかりと取り組んでいく。